

清水遺跡 (1)

遺跡番号 平成11年度新規登録
調査回数 第1次
所在地 村山市大字名取字清水南
北緯・東経 38度30分45秒・140度22分16秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道（東根～尾花沢）
調査面積 6,020 m²
現地調査 平成22年5月17日～11月30日
調査担当者 高桑登（現場責任者）・庄司昭一・天本昌希・戸田敬・三浦勝美・安部将平
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 縄文時代・平安時代
遺構 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑・柱穴等
遺物 土師器・須恵器・縄文土器・石器（文化財認定箱数：41箱）



図1 遺跡位置図（1：25,000）

調査の概要

清水遺跡は、最上川右岸の丘陵山麓部に位置し、丘陵東側の清水集落のほとんどを含む広大な遺跡である。遺跡の西半部に高速道路の建設が計画されたため、建設に先立って発掘調査を実施した。南北に長い遺跡のため、遺跡の南端部を清水遺跡(1)、北端部を清水遺跡(2)として調査を実施している。

調査は遺構・遺物の粗密を確認するためのトレンチ調査から実施した。トレンチ調査の結果、事業範囲内の全面に遺構・遺物の分布が認められた。このため、事業範

囲を南北に分け、平成22年度に南半部、平成23年度に北半分の調査を実施することとした。

遺跡南端部の低地を挟んだ西側の丘陵には、経塚森遺跡が立地している。

見つかった遺構と遺物

調査区内を通る農道や水路によってA～D区に分割して調査を行なった。

A区の西半部及びD区は両側の丘陵に挟まれた谷状に低い地形で、旧河道と考えられる。この場所からは、大小の溝跡が多く見つかった。排水や灌漑のために掘られた溝の可能性がある。溝は10～50cm程の深さで、部分的に1m程に深く掘られる。その周辺から土師器や須恵器など平安時代の土器が多量に出土している。

溝の一部に方形に掘り広げられた箇所があり、その上流部に杭列の痕跡が認められた。底面には数センチ大の礫が敷き詰められており、水場として利用されたと考えられる（図2・3）。水場周辺の堆積土最上層には灰白色の火山灰が堆積しており、西暦915年に噴火したとされる十和田火山の火山灰の可能性ある。火山灰堆積層の下層からは大量の遺物が出土している。完形の坏や墨書土器なども多く、水辺の祭祀に伴う遺構の可能性もある。墨書土器は「縄」の字が多く認められる（図6）。

周辺の遺跡では、河北町の熊野台遺跡で同じ「縄」の墨書土器が1点出土している。村山市内では清水遺跡(2)、西原C遺跡で数点の墨書土器が出土している。

A区の東半部は後世の開墾により大部分が削平されていた。調査区全域に渡って、倒木痕と考えられる大型の土坑が多く見つっている。A区西半部では遺構検出面の約50cm下に黒色粘土層が堆積しており、その下からも溝跡等が検出されている。

A区の北端部、B区、C区の南西部は、丘陵と低地の境界部にあたり、この周辺から竪穴住居跡が5棟見つかった。C区南東部の大型竪穴住居跡からは床面に焼土の痕跡が多く検出されており、工房と考えられる。この竪穴住居跡から金属製の帯金具が出土した。竪穴住居跡の堆積土(図5)や土坑などからも火山灰が検出されている。火山灰は竪穴住居跡の上層や、竪穴住居を切る土坑から検出されている例が多い。

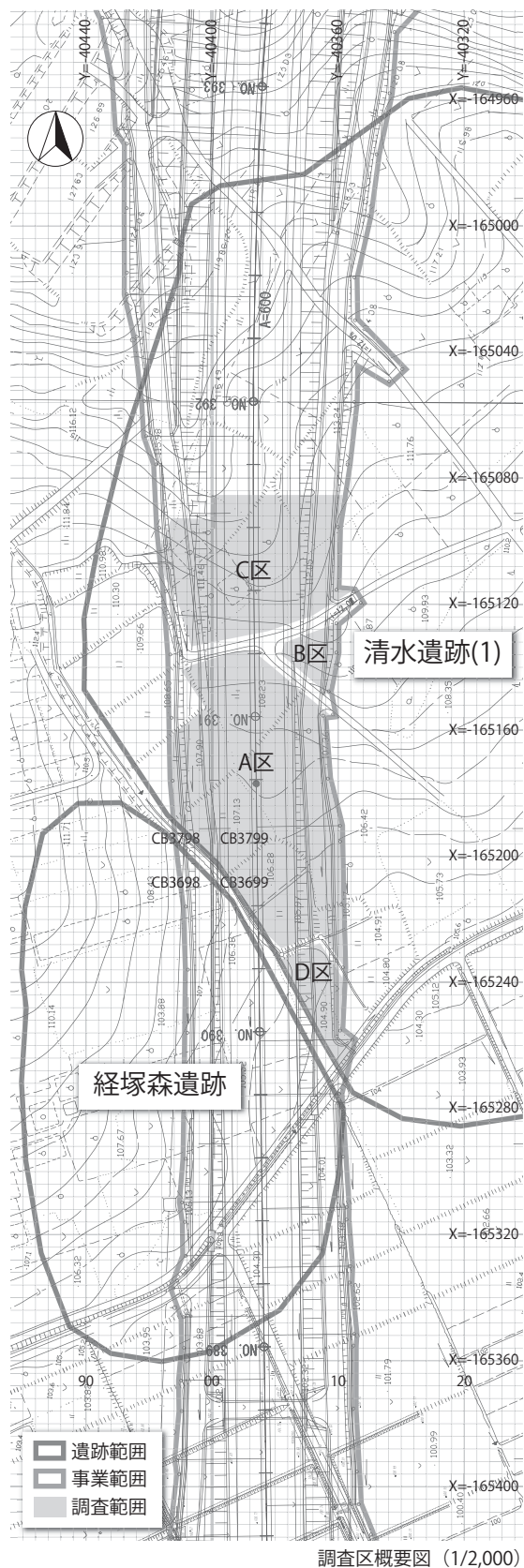
この他、少量の縄文土器、石鏃が出土している。ただ、縄文時代の明確な遺構が認められないことから、縄文時代においてこの地は居住の場所としてではなく、狩猟場として利用されていたと考えられる。

まとめ

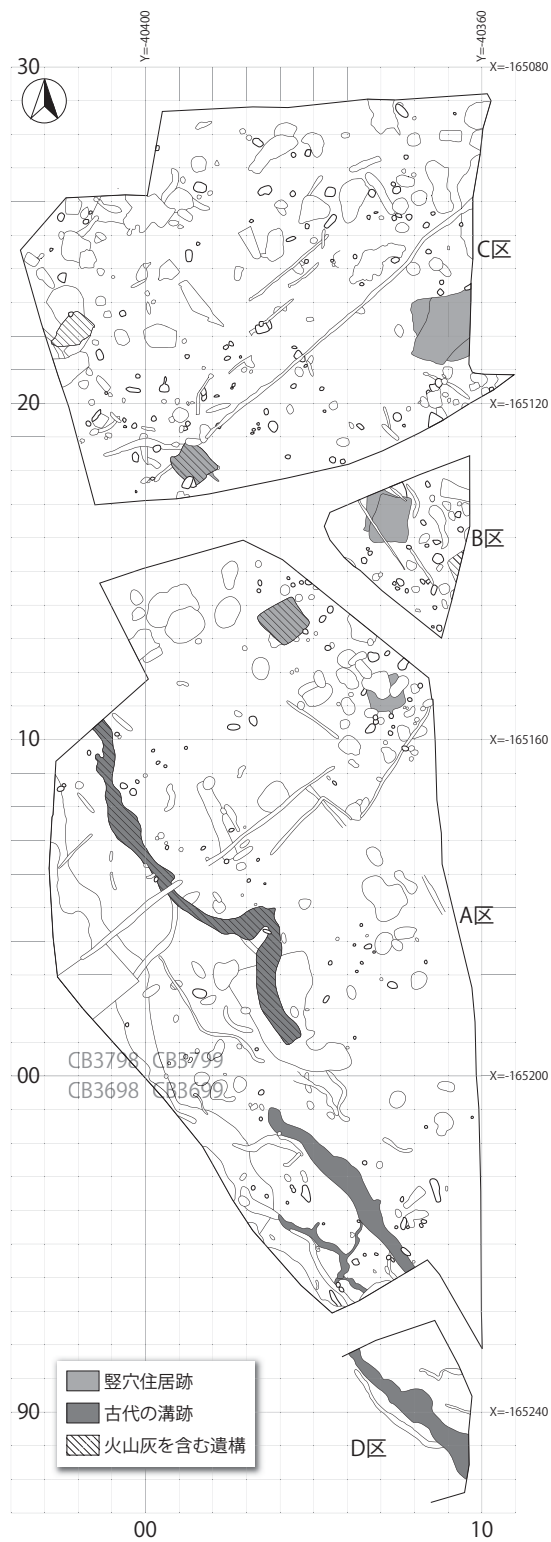
今回の発掘調査の結果から、丘陵の裾部に竪穴住居が並び、低地には排水や灌漑のための溝が掘られている景観が想定できる。今回の調査では確認できなかったが、低地には水田があったと考えられる。火山灰の堆積している様子や出土した土器の特徴から、集落が存続した時期は9世紀後半頃で、火山灰が降った10世紀初頭には集落はすでに廃絶していたと考えられる。



調査前状況(南から)



調査区概要図(1/2,000)



遺構配置図 (1/800)



図2 溝跡遺物出土状況 (北から)



図3 溝跡遺物出土状況 (北東から)



図4 調査区全景（北から）



図5 調査区全景（上が北）

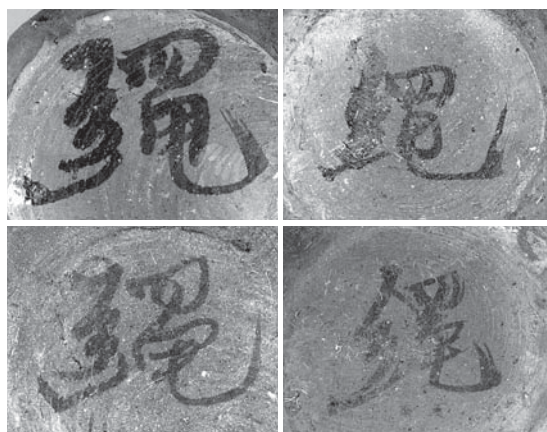


図6 溝跡出土墨書土器



図7 竪穴住居跡調査状況（東から）